

第 44 期 日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画 研修報告書

2017 年 8 月

県立広島大学人間文化学部

平野夏美

(1) 研修先と期間

CEPE(メキシコ国立自治大学付属の語学学校) 2016 年 8 月~2017 年 6 月

(2) 研修内容

BASIC04 のクラスから研修を開始し、毎日文法や会話のクラスを受講。

出された課題を毎日欠かさず行い、授業についていくために自主的にスペイン語の学習も行った。スペイン語以外のクラス(文化、歴史、ダンスなど)も受講し、メキシコ伝統ダンスやサルサダンスなどを習得した。

最終的には CEPE の最終レベルである superior のクラスまで受講。クラスの最終課題として「メキシコに渡った日系移民の歴史」というテーマで研究し、スペイン語でレポートを提出した。



死者の日の飾りで賑わう講堂前。季節によって様々なイベントがある。

CEPE では言語のみならず、ダンスや料理、芸術や歴史など幅広く学べる。



(3) 研修目標及び達成状況

私の研修目標はスペイン語の能力を最大限まで伸ばす、というものであった。intermedio2(他機関で研修を受けるために必要とされるレベル)に到達した後も他の機関に移らず、CEPE でスペイン語の学習に全力を注いだ。また、具体的なスペイン語レベルを証明するためにスペイン語能力試験 DELE の B2 レベルに到達するという目標をかかげ、7月にメキシコで試験を受験したが試験結果はまだ出ていない。

(4) 研修に対する感想、余暇の過ごし方

CEPE での研修はセメスターごとに行われるテストがプレッシャーだった。最初から高いレベルのクラスに入ったことから、常に高いレベルのスペイン語能力を求められ、最初はついて行けないほどだった。一度はダンスや芸術のクラスを取る余裕がないほどで、勉強にはかなり苦労した。

余暇の過ごし方としては、週末はメキシコ人の友人や日本人の留学生と出かけたりして過ごした。長期休暇を利用してメキシコシティ以外を旅行することもよくあった。プエブラ・タスコといった日帰りで行ける観光地も多い。メキシコシティとは違う新たなメキシコの顔を知る良い機会だった。

メキシコシティから一番近い海、アカプルコは、多くの人がバカンスに訪れる。
私も一週間の休暇を利用して友人たちと訪れたことがある。



(5) 日本から持参すべきもの

電子辞書、パソコンなど。

生活用品などは思っていたよりもメキシコで手に入れることができる。日本食品も少し高いが、簡単に手に入る。日本食レストランはとても高価だが、なかにはすき屋など安価なものもある。

(6) 日常生活（治安対策を含め）に関する次期参加者へのアドバイス

とにかく夜遅くに一人で出歩かないこと。貴重品（クレジットカード、iPhone など）必要のないときは持ち歩かない。メトロやメトロバスを利用する際は細心の注意を払い、決してスマホを見たりしないこと。現地の人にはスマホを見ている人が多いが、自分は外国人で目立つということを自覚すること。

女性は露出の多い服は避けた方がよい。日本ではショートパンツやミニスカートを着ている女性は多いが、メキシコではあまり見かけないため目立つ。暴行などの被害を避けるため、なるべく目立たない、動きやすい服装が好ましい。

●スペイン語の到達度

(7) CEPE では Intermedio2 レベルに到達したか。 はい / いいえ

2017年2月に intermedio2 の試験が終了。その後 intermedio3、superior（発展クラス）を受講。スペイン語上達のために心掛けたのは、CEPE で配られるニュース雑誌を毎日読み、わからない単語があったらメモし、それを何度も見返すこと。

あとは積極的にラジオ、テレビ、現地の人などからスペイン語を聞くようにすることが重要。

(8) 現地の生活で苦労したこととその解決法（病気・事故等も含む）

辛い病気にかかることも、強盗などの被害や事故に遭うことも一切なく無事に過ごせた。強いて言うのなら学生の身なので、奨学金だけで生活ができるか最初は不安だった。しかし外食をできるだけしないようにし、スーパーやメルカード（市場）で安い食材を購入して自炊すれば、奨学金だけでも十分に生活をする事ができた。

(9) おわりに

日墨グローバル・パートナーシップ研修において、広島県推薦枠ができたのは今年からのことです。広島県代表としてこの素晴らしい研修グループの一員になれたことをとても誇りに思っています。最初のセメスターが終了した後には赴いたグアナファトでの研修では、広島県とグアナファト州の強い結びつきを改めて感じる事ができ、今後も大切にしていきたいと思うようになりました。

現在メキシコでは日本の文化への関心が高まっており、日本語学習者も年々増えているようです。日本関連のイベントがあると大勢の人が集まり、毎回大盛況を見せています。それに比べると日本人のメキシコへの関心は低く、メキシコの公用語がスペイン語だということさえも知らない人が多いように感じます。私も今回の研修に参加するまで知らなかったことが多いのですが、語学学校の最終課題テーマとして選んだ「メキシコに渡った日系移民の歴史」の研究を通して、メキシコと日本の古くから続く交流や深い繋がりに感銘を受けました。メキシコに渡った日本人が、現地で築き上げた両国間の絆を、私たちの生きる現代、そして未来までも続いて欲しいと思います。

今後の広島とグアナファト、日本とメキシコの繋がりを強めるための助けができるようにスペイン語の能力をこれからも磨いていきたいです。

